

JELA NEWS

ジェラニュース 第70号

2026年8月15日 発行

発行責任者 ペア 薫

公益財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



義足で踏み出す未来への一步

CONTENTS	世界の子ども支援	パナソニック ホールディングス様からソーラーランタン300台 カンボジアの村々を照らす(P4) / カンボジアに16棟目のプレスクール建設中(P5)
	難民支援	世界難民の日:「食べて、学ぼう! ミャンマーのこと」を開催(P2) / JELAミッションセンターをブルーにライトアップ 今年是有名スペイン料理店も参加(P3) / フィロクセニア奨学金 2027年度奨学生募集中(P3)
	奉仕者育成	インド・ワークキャンプ2026参加者レポート(P6) / アメリカ・ワークキャンプ2026速報(P4) / カンボジア・ワークキャンプ2027 来年2月開催(P5)
	その他の記事	秋のチャリティ・イベント2026「カンボジアの子どもたちに必要なもの」告知(P8) / JELAのウェブサイトにてサイレントオークション開催中(P8) / 支援者一覧(P8) / 編集後記(P8)

6月20日は“世界難民の日” 「食べて、学ぼう！ ミャンマーのこと」を開催

毎年6月20日は、国連の定める「世界難民の日(World Refugee Day)」です。JELAはこの日に合わせ、慶應義塾大学文学部・藤野陽平研究室と共同でチャリティイベント「食べて、学ぼう！ ミャンマーのこと」を企画・開催しました。

雨天の中、会場となったJELA ミッションセンターホールには、58名もの方が集い、会場は満席となりました。

イベントでは、ゲストスピーカー 刈谷愛さん、保芦ヒロスケさん、ナンミャケーカインさんによる講演のほか、保芦さんのミャンマーカレー試食会や、講演者によるパネルディスカッションが行われました。

刈谷さんは、ミャンマー出身の医師で、JELAの奨学生として順天堂大学院博士課程で学んでいます。講演では、デジタルスキルと健康と寿命の関係について説明し、ミャンマーの健康事情だけでなく、医師から見たカレーの効能について語りました。

保芦さんは、ミャンマー料理研究家で、特にカレーについてはスペシャリストです。保芦さんのミャンマーカレーは某テレビ番組で絶賛されたこともあります。講演では、ミャンマーカレーを作ることになった経緯、ミャンマー支援活動への熱い思いなどが語られました。

ナンミャケーカインさんは、京都精華大学特別研究員で、ミヤ日本教



育センターを創立し代表を務めています。在日ミャンマー人の学者という立場から、クーデター後のミャンマーの情勢に関する見解や来日ミャンマー人の活躍、来日後に彼らが抱える問題などについて講演されました。

講演後には、保芦さんが丹精込めて開発したミャンマーカレーが振る舞われました。パネルディスカッションでは、日本であまり報道されないミャンマーの社会や文化がテーマとなり、ご来場の皆様から多くの満足の声をいただきました。

JELAのYouTubeで
当日の講演を
ご視聴いただけます！
チャンネル登録も
お願いします！



保芦 ヒロスケ さん



ミャンマーカレー試食会の様子



刈谷 愛 さん



ナンミャケーカイン さん



パネルディスカッションの様子

JELAミッションセンターをブルーにライトアップ 今年は有名スペイン料理店も参加！



JELAミッションセンターでのブルーライトアップ



今年のライトアップにご協力くださったレストラン
フォンダ・サン・ジョルディ様

JELAは今年も、6月20日の「世界難民の日」に合わせ、国連高等弁務官事務所（UNHCR）による難民の人権啓発活動「ブルーライトアップ」に賛同し、6月10日から25日の間、JELAミッションセンター1Fホール、2Fオフィスなどを計3500球のLEDブルーライトで照らしました。JELAは、このライトアップを2023年から行っています。

今年は、JELAの真向かいにある

本格的カタルーニャ&スペイン料理のレストラン「フォンダ・サン・ジョルディ(Fonda Sant Jordi)」様もブルーライトアップに参加してくださいました。

食ベログによる「スペイン料理百名店2026」に選ばれている人気店である同店がJELAの難民支援事業とブルーライトアップにご賛同くださったことは大変大きな励ましとなりました。

今後も、ブルーライトアップを通じて、JELAの社屋がある恵比寿の地で難民や難民支援への理解が広まれば良いと考えています。

フォンダ・サン・ジョルディ様のホームページは右下の2次元コードから。「ブルーライトの協力のことを聞きました！」とぜひ伝えにレストランを訪問してください！



難民のための 「フィロクセニア奨学金」 2027年度奨学生募集中！

JELAは現在、日本に住む難民のための奨学金制度「JELAフィロクセニア奨学金」の奨学生を募集しています。書類・面接審査を経て採用（合格）の場合、2027年度から支給を開始します。応募締切は**2026年9月30日（必着）**です。

難民やそれに準ずる公的な地位を有する者（認定難民、補完的保護対象者など）、認定難民等の家族（子

など）、および国際的保護を要する難民認定申請者が対象で、いずれの場合も日本において中長期の在留資格を有することが条件です。

奨学金の支給額は年間120万円以内で、原則として卒業（修業年限）まで支援します。今回の採用定員は2～3名です。

日本での自立のために教育を希望しながら、経済的にそれが難しい、という難民の方々の進学・学業継続を支援いたしますので、ぜひご応募ください。また対象となりそうな身近な方にご紹介ください。

当奨学金の名称にある「フィロクセニア (φιλοξενία)」とは「旅人への愛・もてなし」を表すギリシア語で、新約聖書からとられています。

旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。
ヘブライ人への手紙13:2



奨学金概要、募集要項
応募方法については
JELAのウェブサイトをご確認ください。
www.jela.or.jp

パナソニック ホールディングス様からソーラーランタン300台 カンボジアの村々を照らす！

JELAはパナソニック ホールディングス様と共に2013年からカンボジアとインドの人々にソーラーランタンを届ける活動を継続しています。本年も、同社がカンボジア支援のためにソーラーランタン300台をご寄贈くださり、JELAとパナソニック 現地法人であるパナソニック・カンボジアが共同で「ソーラーランタン寄贈式」を開催しました。

4月3日、カンボジアのコンボンスプー州アオラル地区コー・ドンテイ村の寺院敷地内で開かれた寄贈式には、JELAの現地パートナーであるLutheran Hope Cambodia Organization（ルーテル・ホープ・カンボジア・オーガニゼーション、LHCO）の協力のもと、寄贈先の村から100人を超える村人が出席しました。

式には、パナソニック・カンボジアの前田恒和代表やスタッフの方々が臨席くださり、日本からはJELAのローウェル・グリテベック理事、奈良部慎平事務長が出席しました。



パナソニック製ソーラーランタン

アオラル地区の高官やコー・ドンテイ村のトロパイン・チョー村長が村人を代表して、ソーラーランタン300台の寄贈について、パナソニック・カンボジア、JELA、LHCOへの謝辞を述べました。コンボンスプー州に96台、プルサット州に100台、バットンバン州に104台の割り振りとなったソーラーランタンによって、無電化地域に住む人々や電気へのアクセスが困難な人々の生活に光が届けられます。

ソーラーランタンは人々の生活を照らす希望の光です。ソーラーランタン寄贈後の追跡調査では、夜間の家族の団らんが増え、子どもの学習



贈呈式の様子

時間の増加、健康面でのメリット（光源として燃焼系の燃料を使わないため、空気の汚染がない）、夜間の商売による収入創出などの様々なメリットが報告されています。報告書PDFは右の2次元コードからご覧いただけます。



このように、日本企業の社会貢献（CSR）は、現地への大きな励ましとなります。JELAでは、建築、衛生設備などでご協力いただける企業様を募っています。情報の拡散をよろしくお願いいたします！

アメリカ・ワークキャンプ2026速報！

2026年7月17日～28日の日程で、JELAアメリカ・ワークキャンプ2026が開催され、中高生16名が参加しました。アメリカの宣教団体Group Misson Tripsが、ミネソタ州バーンズビル市で開催した家屋修繕のボランティアキャンプにJELAグループとして参加しました。今年のキャンプのテーマは「Illuminate」。キリストの愛をもって仕える奉仕者として、それぞれの個性がまぶしく輝く12日間になりました。キャンプ参加者が受けた恵みや成長を綴った感想文は、JELAニュースブログおよび本紙次号（12月発行）に掲載予定です。



カンボジアに16棟目のプレスクール建設中 105人の子ども達が完成を心待ちに

JELAは、世界の子ども支援事業として、カンボジアの子ども支援に力を入れています。特にJELAが注力するのは子どもたちの教育環境の整備で、2012年からプレスクール（未就学児の保育施設）の建築事業を継続して行っています。今年は、16棟目となるプレスクールの建設がカンボジアのパートナー団体 LHCOの選定したコンボンスプー州 タサル・オーラル郡トメイ村で進んでいます。4月には、JELAのグリテベック・ローウェル理事と奈良部慎平事務長が現地を視察しました。

トメイ村は人口982人の村で、380世帯が暮らしています。そのうち105人が2～6歳児であり、プレスクールに通う可能性のある子どもたちです。トメイ村から近くの町まで38kmもあり、道路事情も悪いことから公共サービスを受けることが難しい地域です。

村の子どもたちの教育環境は、村の集会所を仮教室として使用していたり、屋根があるだけで壁のない建



トメイ村の子どもたち

物が使われていたりするなど、安全面からも改善が必要です。村の集まりやイベントによって授業が中断されることもあるという背景から、トイレを併設するプレスクール建築の候補地となりました。JELAがプレスクール校舎とトイレの建設費用8,930ドルを提供し、農村僻地の教育環境の改善に着手します。LHCOの指導のもと、村ではプレスクールの建設品質管理委員会が組織され、現在は、整地と盛土が行われています。今秋には建物部分が完成する予定です。

JELAは、世界の子ども支援委員会が中心となって、LHCOとともに協力してカンボジアの子どもたちの教



現在教室として使われている、壁のない建物



プレスクール建設予定地へ案内する村民

育環境の改善のため活動を続けてまいります。JELAの世界の子ども支援事業へのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

カンボジア・ワークキャンプ2027 来年2月開催！

JELAは、毎年2月に18歳以上の方を対象にした海外でのボランティアワークキャンプを開催しています。2027年は「カンボジア」でワークキャンプを開催いたします！

キャンプでは、JELAのパートナー団体が支援する小学校やJELAが建築したプレスクールでのボランティア活動や、歴史的な場所を巡るスタディーツアー、現地の大学生たちとの交流会などが予定されています。さらに、JELAのキャンプならではのプログラムであるディナーショーも毎晩行われ、その日に経験したことや感

じたことについてキャンプに集った仲間と分かち合い、聖書の御言葉を通して捉え直す時間も持たれます。信仰や心の成長に加えて、語学の上達や異文化の体験など、ひとまわり大きく成長した自分をカンボジアの地で体験してみませんか？

開催日程や申し込み方法など詳細は、秋ごろWEBにて公開されます。下掲2次元コードから、前回の参加者が書いた感想レポートをお読みいただけます。ぜひご覧ください。



インド ワークキャンプ 2026 参加者レポート

2026年2月10日～20日、インド・マハラシュトラ州ジャムケド市にてインド・ワークキャンプを開催し、日本の学生9名が参加しました。ジャムケド市の地域医療福祉団体「Comprehensive Rural Health Project (CRHP)」にて、47名の方に義足を贈呈し、インドの農村社会について学ぶ機会になりました。その体験を綴った参加者たちのレポート(抜粋)をご紹介します。(学年はキャンプ当時のもの)



与えるはずだった私が、与えられた10日間 西川 凛香 (大学3年)

インドで衝撃的だった出来事のひとつが、義足づくりを通じて出会った青年との交流です。1歳年上の彼は事故で左足を失っていて、私は彼が義足を付けて歩くりハビリを手伝いました。後に彼が「人間の尊厳を取り戻せた」と語っていたと聞き、労働が生活の基盤である社会において足を失うことは、自らの価値を失うことに等しいことを感じ、保険制度が整い、最先端の義足も手に入る日本の環境のありがたさを感じました。また、義足贈呈式の日、彼は私と目が合うと手を振り、写真を撮ろうと声をかけてくれました。私は、少し補助をした学生のことなんか覚えていないだろうと思ったことや、英語に自信がなかったことから、話しかけることを躊躇していましたが、彼との出会いのおかげで、勇気を持って話かけ、ひとつひとつの瞬間を大事にすることを学びました。



CRHPで出会った“共に生きる”という学び Dabang Gyung Naw (大学3年)

CRHPで過ごした10日間は、私にとって「見る」だけではなく「共に生きる」経験でした。看護学生として参加したキャンプでは、施設内の病院で傷の処置のお手伝いもさせていただき、気候や生活環境によって傷の治り方も違うことや、その土地に合った医療の大切さを学びました。日本の整った医療環境とは違って、限られた物資や設備の中で一人ひとりに向き合う医療が行われており、特に高温多湿の気候や生活環境の影響で傷が悪化しやすいことから、感染を防ぐために慎重に処置を行う姿が印象的でした。医療は技術だけでなく患者さんを思う心によって支えられているのだと感じました。看護とは処置だけでなくその人の人生や背景まで含めて支えることだと気づき、どのような環境であっても相手を尊重する姿勢は変わらないことを学びました。



隣人に向き合い、自分と向き合った10日間 西嶋 莉里 (高校生)

訪問先であるCRHPでは、医療支援にとどまらず、女性のエンパワーメント活動などを通して、地域社会に根差した社会問題の根幹要因に直接アプローチしていました。CRHPで過ごす日々の中で印象に残っていることのひとつが、ワークで作った義足の贈呈式で聞いた「足を失った人は部屋の隅に座らされ、何もさせてもらえず、“No one”として扱われていた。しかし義足を得て動けるようになったことで、家族の中で役割を持ち、“Someone”になった」というお話です。この言葉を通して、健康を守ることはその人の生きがいを守ることにつながるのだと気づかされました。また、将来どのような形で開発支援に関わりたいのか迷っていた部分もありましたが、医療分野で人々の尊厳を支える働きに携わりたいという思いが、改めて強くなりました。



義足の製作に取り組むキャンパー



ディバーションの様子



レポート全文は
JELAニュースブログで
お読みいただけます！→



JELAで学んだこと

益田 大和 (大学2年)

キャンプではワークの他にも、医療施設の見学や、ソーシャルワーカーの方々との意見交換、CRHPが支援する村の家庭訪問も行われました。私は大学で福祉を学んでいますが、実際に支援を必要としている方のお話を伺い、その背景にある生活や家族の状況について考える時間は、教室での学びとは全く異なる重みがありました。また、日本での学びは福祉の制度や仕組みについて理解することが中心でしたが、ワークや見学を通して、「誰のための支援なのか」という原点を改めて考えるようになりました。実際に当事者の声を聞き、その表情や言葉に触れることで、支援とは一方的に与えるものではなく、相手の人生に寄り添う姿勢が何よりも大切だと感じました。



それでも、共にいる

角本 眞里 (大学2年)

キャンプで特に印象に残ったのは、畑仕事とスラム街での経験です。畑で子どもたちと遊んでいた際、家族から「遊びよりも働き方を教えて」と言われ、「子どもは遊ぶべき」という自分の常識が揺らぎました。また、スラム街を訪問した際に、泥の上に座る赤ん坊を見て親を責めそうになりましたが、のちに駆けつけた母親が愛情を注いでいる姿に触れ、自分の価値観が一面的だったことに気づきました。私がインドで出会った人々は、日本よりもはるかに厳しい環境の中でも笑顔や愛を失わず懸命に生きていました。その姿から自分の理想を押し付けるのではなく、まずは相手ありのまま受け入れ、共に生きることの大切さを学びました。そのような寄り添いの先にこそ、より良い未来や社会を共につくる可能性があると感じました。



共に働き、生きる

百武 歩人 (大学4年)

神様の言葉を牧師のメッセージを通してメンバーと共有するディボーションで、とても印象的だった聖書の言葉があります。「父よ、御名が崇められますように、御国が来ますように。わたしたちに必要な糧をお与えください」。キャンプ中「わたしたち」とは誰のことだろうと考え続けました。最初は家族や友人でした。次の日は、キャンプメンバー、新たな友人、そしてその日共に働いた人も加わり、最終日にはキャンプ中に会った人全てが「わたしたち」に加わっていました。最初は別の場所にいるように感じた人が、気づけば「わたしたち」という温かい輪の中にいて、共に働き、生きる喜びを感じていたのです。「わたしたち」は広がり、増え続け、減ることはないことを経験しました。



隣人愛をすることに怖気付かないで

木原 萌 (大学1年)

私は「善いサマリア人」について学んだ際、思ったように義足作りのワークができず、完成した義足を喜ぶ患者さんを見ても、そこまで感情移入ができなかった自分を振り返っていました。たとえ隣人愛を実践しても、気持ちが伴わないことや不純な動機で行ってしまうこともあるのではないかと考えていたとき、市原悠史牧師が、「私たちの気持ちは気にしないでいい。何故ならイエス様は『行って、あなたも同じようにしなさい』と言ったのだから。そして、その行動には想像以上の影響がある」と言ってくれました。隣人愛とは行動であって、私たちの気持ちの大きさや内容は問題ではなかったのです。この先、自分の動機ゆえに行動をためらう時も、踏み止まらず行動したい気持ちに素直になりたいと思いました。



神様に祝福されたインド旅

笹山 百合菜 (大学2年)

毎日のディボーションは、1日の経験を振り返り、自分の心の動きと向き合うことで、何を感じ、何に心を動かされたのかを深く知る時間でした。また、他のメンバーの考えを知ることで、新たな視点が得られ、自分の気づきがさらに広がりました。特に「行って、あなたも同じようにしなさい」という御言葉から、隣人愛は感情や思想ではなく、行動として表れるものであることを学びました。隣人愛とは絶対に人を愛さなければならないと思っていた私には驚くことで、行動に移すことは難しいことであるけれど、私が行動に移すことで私を通して神様の愛が伝わるのだと思いました。将来、貧困問題に関わりたいと思っている私にとって、この御言葉を行動に移すためにどう動くべきか考えさせられるキャンプでした。



あの時、あのメンバーだからこそその学び

宮本 姫那 (大学3年)

私は精神疾患のある方を支援するため心理学を学んでいます。しかし現場の過酷さや自分の無力さに怖気づき、進路を悩んでいました。そんな中、キャンプに参加し、精神病患者の支援者が不足していることを知りました。また、作業がうまくできない時には、現地の方々が何度も手本を見せてくれ、最終日には、笑顔で握手を求めてくれたり、涙を浮かべて別れを惜しんでくれたりと、感無量の思いでした。自分の無力さにも苦しみましたが、同時に相手のために行動する喜びを経験し、またディボーションの中で自身が人に尽くすことでも幸せを感じることに気づき、心理職への想いが確かなものとなりました。「行って、あなたも同じようにしなさい」という聖書の言葉を人生のテーマとして、人を愛し彼らの隣人となれるよう努力していきたいと思います。



JELA 秋のチャリティ・イベント2026 『カンボジアの子どもたちに必要なもの』

今年は、カンボジアにおけるJELAのパートナー団体 Lutheran Hope Cambodia Organization (LHCO) からタイ・ボネ事務局長をお迎えして、下記のようにチャリティ・イベントを開催します。JELAとLHCOはカンボジアの幼児教育の環境改善のために2004年から20年余り協働しています。日本のキリスト教幼児教育に造詣が深いスピーカー数名とともに幼児教育に必要な諸要素を確認しつつ、カンボジアの将来のために今子どもたちの教育に何が必要なのかを共に考えませんか。

『カンボジアの子どもたちに必要なもの』イベント概要

講演者：LHCO事務局長タイ・ボネ氏 ほか

日 時：2026年11月28日（土）

午後1時30分開演（午後2時開演）

会 場：JELAミッションセンター・ホール
（東京都渋谷区恵比寿1-20-26）

入場無料（当財団カンボジアの子ども支援へのご寄付を承ります）

プログラムの詳細は、JELAウェブサイトやニュースブログにて順次公開いたします。
皆様のご来場をお待ちしております！

タイ・ボネ氏 プロフィール

カンボジア、コンポン・チャム出身。開発学および公共政策の学位を取得しており、特にグローバル開発政策を専門分野としています。約20年にわたる実務経験を有し、平和構築、グッドガバナンス、ジェンダー平等、アドボカシー、人道支援、教育、生計向上および地域開発など、多岐にわたる分野でリーダーシップとプログラム・マネジメントの専門性を培ってきました。これまで、国内外の非政府組織（NGO）や国連機関において、さまざまな役職歴任しています。2024年4月にLHCO事務局長に就任。カンボジアの農村における持続可能な生産性向上、子どもをとりまく環境の改善に戦略的に取り組んでいます。



JELA特設サイトにて チャリティオークション開催中！

日本福音ルーテル教会の元宣教師で、現在はアメリカのミネソタ州でキルトショップを運営するナンシー・ベケダムさんが、JELAの世界の子ども支援の助けになれば、と30点のキルトを製作してくださいました。「30」という数字には意味があります。ナンシーさんは昨年に召された夫マフロン・ベケダムさんとともに、30年もの月日をキリスト教宣教師として日本の人々のために捧げました。今回は、亡き夫マフロンさんの日本での働きを記念するために30点のキルトをJELAに寄付してくださいました。そのうち数点の大作について、特設の「サイレントオークション」フォームにて入札をお受けしております。オークションには、右の2次元コードからご参加いただけます。マフロン先生の思いをのせて、ナンシーさんのキルトを通して、ぜひカンボジアの子ども支援にご参加ください！



編集後記

『紛争後のカンボジア社会におけるキリスト教』（宇井志緒利, 2019年）という興味深い論文を拝読しました。宇井氏によると、ポル・ポト政権下の虐殺で200人以下になったキリスト教徒は、論文当時で人口の2.5%、約40万人まで増加とのこと。私自身も現地パートナー団体から昨今は4%近いと聞いたことがあります。JELAは2004年から22年余りカンボジアの子ども支援に従事してきました。こうしたささやかで静かな働きすらも何らかの貢献となっていたら、と願いますが、22年という時間の質量は、たとえばJELAが初めて建設したプレスクールに通った子が親になっていたりするほどの重みがあるものです。この間に教育面、生活環境面の改善、もとい、人生の完全な方向転換となる神様との出会いをどれだけ紹介してこられただろう、とJELA創設の宣教師の働きと比べ、団体の初志とのブレはないか、と感じることがあります。自省のない団体に成長はありません。働きの継続・発展とともに、成長し続ける団体でありたいと切に願っています。（バア薫）

支援者一覧（2026年3月1日～6月30日）

青木孝士/秋吉亮/浅野圭佑/阿部光茂/石原京子/石森寿幸/石森京子/磯貝高士/井上祐子/岩越優子/江崎啓子/大石千絵/大谷忠雄/小川副代/柿澤純江/片山良明/勝部久子/京谷信代/小泉小枝/小暮修也/小島拓人/小林勝/佐々木純子/霜尾閑子/鈴木鐵也/鈴木浩之/橘智/塚田政司/辻裕子/永島かな子/永瀬安恒/野口久志/芳賀美江/濱口美佐江/原田恭子/福嶋知恵子/古庄理世/古屋四朗/保坂和子/前田綺雲/間瀬啓允/松岡俊一郎/水口博幸/光永尚生/光延和賀子/南谷なほみ/宮原信孝/村岡晶子/森保宏/恵比寿聖書ホーム/グレイス合唱団/聖書ホーム委員会/世界難民の日/バ外来場者/東洋英和女学院中高部宗教委員会/ハーバ・タム・ミストリス/RHEP難民教育推進協会/JELC市ヶ谷教会/メソジスト教会/JELC玉名教会/JELC天王寺教会 教会学校（以上順不同・敬称略）

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

